

地域の各活動主体の課題と長所（第1回検討会議のまとめ）

1 回目の会議で出た意見を各委員が所属する活動主体により分類

（内部者...当該活動主体に属する委員 外部者...内部者以外の委員 地域活動支援組織...社協・まちセンの委員および区職員）

1 地区区民館・同運営委員会

	内部者からの意見	外部者からの意見	地域活動支援組織からの意見
課 題	地区区民館の事業運営と従事者の雇用を両立しているため、役員の負担が大きい 委託として運営する上での区職員との関わりを見直すべき	高齢者の利用に偏りがち 若者の参加が少ない	利用者（年代）の偏り、新たな利用者層の掘り起こし 利用者層が偏っており、利用者が増えていない 運営委員会役員の高齢化 役員など、担い手となる人材が不足・高齢化している 活動が硬直化している 区職員が地域の団体の状況を把握していない
長 所	様々な年代が利用できる拠点である	備品（けん玉）を貸してくれる	活動拠点を持っている 地域の拠点として機能できる 事業実施に必要な資金がある 様々な団体の代表者が関わっている 他の団体の人と顔の見える関係が築ける テントや綿菓子機などの備品を持っている

2 町会・自治会

	内部者からの意見	外部者からの意見	地域活動支援組織からの意見
課 題	<p>担い手の人材不足・高齢化 加入方法がわからない、情報発信・広報不足 加入するメリットが見えにくい 加入することによる義務やデメリットのイメージが強い 若い人が何故入ってくれないかわからない</p>	<p>若い人の加入率が低く、高齢化している 住民のコアとなる会社員との繋がりが弱い 新住民には敷居が高い 町会・自治会がなぜあるのかわからない</p>	<p>高齢化して、若い人が入りにくい 役員だけに負担がいく 加入したい人に誘いが届いていない 参加したい時の連絡先がわからない 活動内容が知られていない 活動が多岐に渡る反面、具体的に何をしているのかわかりにくい 活動がオープンにならず、加入のメリットが伝わらない 加入するメリットが伝えきれない 新住民が入りにくい 行政関連の事務が負担で新たな活動ができない 若い世代が関心を持つ活動、事業が無い 学校行事や避難拠点の運営、地域のお祭りなどに町会が協力しているが、町会の評価につながっていない</p>
長 所	<p>地域の課題に対応できる 地域の情報が入ってくる 顔が広がることによる安心感</p>	<p>幅広い年齢層を構成員としている 地域に立脚 地区祭に 3000 人の参加者、人とつながる拠点を持っている</p>	<p>特定の分野に興味・関心が無い方でも、会員になれる 組織体制、信頼性が高い 役員の仲が良い、機動力、組織力がある 回覧板など周知手段がある 町会会館など、拠点となる場所がある お祭りなどイベントに多くの人が集まる 地域活動に使える資源が豊富</p>

3 事業者（企業・商店会など）

	内部者からの意見	外部者からの意見	地域活動支援組織からの意見
課題			<p>企業の地域貢献がなかなか評価されていない、わかりづらい</p> <p>社会貢献活動と営利活動との区別で誤解を生じる</p> <p>商店会の担い手の高齢化が進んでいる</p> <p>住まいと商店が分離していると地域への帰属がやすい</p> <p>事業者数、従業者数が減っている</p> <p>商店街の空き店舗が多くなっている</p> <p>商店会の会員数が減っている</p>
長所		<p>昼間開いているので安心</p> <p>学童の駆け込み場所としての役割</p> <p>得意分野に強い</p> <p>商店街×保育 こども笑店街の発想（親子で楽しめる）</p>	<p>行動に移す（意思決定）のが早い</p> <p>地域に密着している</p> <p>平日の昼間でも地域活動等に参加できる</p> <p>事業者ごとに専門性を持っている</p> <p>店内で地域情報を発信できる</p> <p>人が集まるイベント企画力がある</p> <p>社会貢献活動の傍らで営利活動ができる</p>

4 NPO・ボランティア団体

	内部者からの意見	外部者からの意見	地域活動支援組織からの意見
課題	<p>団体自身が自分たちの活動の魅力に気づいていない アピールが上手でなく、必要とする人に活動が届いていない、行政にも知られていない SNSを使いこなす世代さえ、活動を広報する、必要とする層に情報を届けることは、大変苦労している イベントの広報が難しい 広報活動が思うように進まない 活動拠点の確保が難しい</p>	<p>助成金を受けて実施しても、助成金が打ち切られると運営に困る ひとりよがりの活動になる場合がある</p>	<p>地域で活動しながら、近所に住む人達と関わりを持とうとしない(しがらみの敬遠) 後継者不足 資金不足 助成金が終了した後の活動を支える仕組み 活動に対する信頼性を得るのが難しい 団体の目的・活動内容等がわかりにくく、信頼性が低い 活動の周知手段が少ない 地縁団体からは認識しにくい</p>
長所		<p>課題、取り組みテーマが明確</p>	<p>地縁型の団体にはないノウハウがある 専門的な知識を持っている 課題と興味が一致した活動ができる 同じ目的を共有しながら活動できる しびりがなく、発想が柔軟 やる気がある人が集まっている 楽しんでやっている 柔軟に参加できる 多種・多様な団体がある 他の団体の活動に関わっている方が多い</p>

5 学校・学術機関

	内部者からの意見	外部者からの意見	地域活動支援組織からの意見
課 題		<p>管理運営が閉鎖的である 働く方が増え、P T A活動・学校での活動が一部の人に負担が偏りがち 父母が運営主体となるスポーツ活動は、負担感が大きく参加できない子どもが増えている 子どもたちが忙しく、地域活動に参加できない 様々な事件があり、子どもがいない方には学校に関わる機会がない(危険な人間ではない証明は難しい) 学校側はリスクに対する責任があるため、地域との関わりに慎重になる</p>	<p>保護者、家庭との関係が中心 子どもが卒業すると関係が途切れる 敷居が高い、色々なことを提案しにくい 副校長先生によって対応が変わる 不登校等、児童・生徒の課題が多様化し、学校だけでは解決できない 教員が子どもに向き合う時間が少ない</p>
長 所		<p>非常時(災害時)に頼れる場所 悩みや苦勞を共有できる同世代の人たちとの接点がある 音楽室、調理室、グラウンド、体育館など豊富な設備を有し、区内全域に広がっている</p>	<p>公共性が高く、他の活動主体が関わりやすい 子どもを通じて地域と接点を持てる 地縁の団体からの協力が得やすい 専門的知識を持っている</p>

6 区

	内部者からの意見	外部者からの意見	地域活動支援組織からの意見
課題	<p>協働に対するマインドが低い 現場に出る機会が減っている 地域活動者と区職員の関わりが少ない 担当外の事項は判断が困難（知識不足） 地域活動へ参加していくことは重要だが、 事務に追われ職員の手が足りず、十分な対応ができない 多様化する区民ニーズのすべてには対応できない 将来の区財政の見通しが厳しい</p>	<p>職員は区民とうまくつき合うノウハウを 獲得できる機会がない 組織が縦割り 区民は様々な施策のパートナーとは考えていない 国の施策が遅れている分野では、区の財源 や職員だけで取り組める事業には限界がある</p>	<p>情報のプラットフォームが構築できていない（部署ごとの縦割り） 区民にとって一緒にやるというより何か やってくれるというイメージ 活動の助成金でもなく、区からの委託でもない第3の資金援助の方法</p>
長所	<p>地域活動の支援に使える資源が豊富 様々な統計データを持っている 公的機関として信頼感が高い 区報、ホームページ、区立施設のパンフレット棚など、広報媒体を多く持っている</p>	<p>区長が協働に対する理解と協力を持っている 区長のリーダーシップ 様々な制限はあるが人的リソースが豊富</p>	<p>活動団体同士の交流ネットワークがある</p>

地域活動支援組織から区職員は除く、区職員からの意見は内部者に記載